

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年6月12日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100785		
法人名	株式会社 クローバー		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	〒731-1141 広島市安佐北区安佐町鈴張2687 (電話) 082-810-2280		
自己評価作成日	令和5年5月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100785-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年6月5日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

どこか懐かしい雰囲気をもち続け、至る所に遊び心を維持し続けようとしている場所である。当事業所は「相手本意の心」を施設理念に「地域になじむ新しい施設の創設」をテーマに自然豊かな町で「ここにしかない場所づくり」を目指している。建物は平屋で安定感がある木造づくりであり、息をし続ける建物構造に工夫をした。施設は「暮らしの空間」と「おもてなしの空間」が区分され、入居者自らが家人と過ごすことのできるラウンジや応接室等がある。また、隣接した社会福祉法人との交流も盛んであり、地域交流スペースや子供カフェ並びに地域のボランティアによる各種行事が盛りだくさんである。家人や職員の理解と協力のもと、入居者の「今」を見つめるケアの在り方を探り続けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人理念、利用者処遇方針、法人運営の心を根源に年度毎に職員の意見を集約した事業所目標「思いやりをもって行動しよう」を今年度の目標に掲げ、個々に目標を立て、一人ひとりが目標達成に向け資質向上を目指している。職員が出勤した際、「おはよう」の挨拶を利用者全員、職員にする様子を管理者が見て推奨し、全職員が普通に笑顔の挨拶ができるようになり、職員同士も気持ちよく仕事ができるようになるなど信頼関係を築いている。地域との繋がりを重視し、施設広報誌を新聞の折り込みの配布や地域合同災害避難訓練、災害時一時避難場所の指定、こども園、地域ボランティアの活動など地域住民の一員として交流の継続に努めている。コロナ禍で行事を縮小して外出や外食ツアーなど、利用者一人ひとりの思いに寄り添いながら取り組んでいる。家族には電話やSNSなどで日頃の様子を情報共有している。

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設の理念を共有し、実践につなげるため、立ち止まる場所、振り返る場所は「施設理念」として伝え続けている。朝・夕の申し送り、各会議開始時は、理念の唱和を行っている。スタッフと共に考えた本年度の事業目標は、「思いやりを持って行動しよう」としている。	施設理念を各自ファイルにて所持し、申し送り時や会議の前に唱和し、共通の認識のもとで、日々取り組んでいる。職員の声を集約した年度目標を掲げ、又、個々の目標を人事考課に記載して半年ごとに自己評価や個人面談にて振り返り、理念に沿った感謝・尊重し、思いやりのある行動を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	年間を通じて広報誌を発行し、近隣地域へは新聞の折り込みに入れている。SNSによる発信や駐車場を開放したこども園との交流や、小学校の福祉学習の場の提供は継続している。また、秋祭り花火大会、花いっぱい運動、地域防災活動を地域の方々と共催に行っている。	インターネットを通じての発信や月4回発行の広報誌を新聞に折り込み配布、防災訓練に地域住民の参加やこども園園児の来訪、花いっぱい活動では地域ボランティアとの交流をしている。コロナ禍収束後には、いきいきサロンの参加や家族と一緒の食事会など行事の再開を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	防災訓練等を地域合同にて実施している。施設長は、広島県全域にて地域包括支援センター、教育機関、一般財団法人、各種団体企業と連携を図り、認知症講座を開催し、介護職員の現任、初任者研修講師として啓蒙活動を積極的かつ継続的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍において、書面での家族会の開催が継続しているが、面会時やサービス担当者会議時には、ご家族の意見を聞かせていただいている。あわせて、ご家族への連絡は適宜、状況の報告を行うと共に、意見を頂き、日々の生活に反映できるように努力している。	コロナ禍で運営推進会議は対面での開催を中止している。定期的、その都度、電話や新聞、SNSなどで事業所の状況報告などしている。地域老人クラブ連合会会長に意見照会で情報共有を行い、意見が運営に活かせるよう努めている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	広島市・広島県の福祉関係機関担当者等との連絡、連携をとり、事業所の実績やケアサービスの取組みについて協力関係を構築している。また、運営推進委員会との連携を計画的に図るため、広報誌を配布し、毎月の行事案内をSNSを利用し、連絡を密にしている。	市福祉課担当者に事業所の実績報告や状況報告、広報誌の配布など法人本部が密に連携を取っている。代表者自らが初任者研修養成講座の講師となり、研修を行うなど日頃から市町と協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>委員会を中心に年間を通じて計画的に研修等を行い、指定基準の禁止の対象となる具体的な拘束行為を正しく理解するように努めている。夜間並びに事務職員不在時は、入居者の安全確保と防犯上の観点から暮らしの空間とその他の空間を施錠するがその他の時間帯は行っていない。</p>	<p>身体拘束防止マニュアルをもとに、計画的に委員会や研修などを行い、グレーゾーンの話し合いやチェックシートで振り返りを行うなど身体拘束をしないケアに努めている。スピーチロックも「何分待ってね」「ありがとう」などフォローの言葉かけを忘れずに不適切なケアも注意し合える関係性を築いている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>尊厳あるケアの提供に努め施設内外の研修に参加している。自己研鑽できる環境で虐待等を見過ごすことがない様勇気を持って発言できる環境、防止に努め、豊かな人間性の育成、職員指導に重きを置き、言葉による虐待もあることを職員間で日々意識し未然に防げるように対応している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>後見人がいる入居者について個々の必要性を関係者と話し合い、状況をライン等で報告している。入居者の状況と家人の思いが大幅に異なる場合等は常時後見人と連絡し状況を共有している。管理者のみの家人連絡ではなく担当職員が家人へ毎月手紙を出す等、全職員で接点を持っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>説明と同意は最低2時間を使い、契約までに入居者、家人の見学を原則に入居者が納得の上で、家人と共に分かりやすい説明で理解できるように努めている。不安や疑問点を尋ねやすい状況を作るために連絡しやすい環境を個々に設置し、意見や要望を日々受付られるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>コロナ禍で会議開催を見送る状況が続くが、書面にて入居者や家人の意見や要望を受け入れ、運営に反映する努力をしている。外部評価の受審により家人に対する匿名アンケートや職員がアウトカム項目のチェックを行い、現在の運営を振り返り、基本を大切にすることを得ている。</p>	<p>手紙や電話、顔を見ながらのライン(SNS)電話などで、日頃の様子を報告するとともに、意見や要望の確認をしている。利用者には日常の会話の中で、好物や食べたい物など聞いている。ファストフード店のハンバーガーが食べたいの意見があり、反映したことがある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の朝夕礼、週単位で実施される連絡会議、月1回実施される、主任、経営、職員会議、カンファレンス、委員会会議等、適宜実施される職員個別面接等を実施している。また、職員の意見を反映し、ピザラ、すし辰、アンデルセン等の出店を施設内で行い、実施している。	朝、夕の申し送り時、会議、日常の会話、個別面談の中で意見を聞いている。利用者の食べたい物、誕生日には好きな物を提供するなど職員からの意見が反映されている。希望休の取り方や体調変化によるシフト変更など働きやすく意見が言いやすい環境作りを築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面接・経験値等を考慮し給与や分掌を精査している。得意な事を業務に活かし、付帯的に不得意な業務が向上できる様にしている。有資格者の確保と常勤職員の登用により処遇改善加算を毎月支給している。有給休暇に関しては管理簿にて管理しシフトを作成している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修を定期的実施し適宜施設外研修に参加している。認知症実践者、リーダー研修を年間1名以上施設負担にて受講できるようにし、キャリア段位制度における評価者を配置している。独自の目標管理シートにより個別面接を実施し、スキルアップへの取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域包括支援センター等同業者との交流、ネットワークづくりや勉強会等に施設提供を行うことにより、サービスの向上を図る取り組みを実施している。隣接する介護老人福祉施設、地域のこども園等とのネットワーク作りに努め、相互のサービスの質を向上させる取り組みを実施している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にはご本人の生活環境を確認し、面談にて現況を把握し不安の解消の礎となるよう努力している。原則本人が居室環境の選択決定を行い、入居日には本人の希望や不安なこと等を担当者がアセスメントし、カンファレンス後、計画書を作成し、本人や家族へ説明同意を実施している。		

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学やインテーク並びに自宅訪問については事前にアポイント時間を3時間設定し、ゆとりをもって接することを心掛けている。契約時は要望や気づきに耳を傾けられるよう、環境を整え、施設長との連絡を24時間可能とし、メール、電話、SNSを利用した関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居開始では居宅等や入院先等の照会等、個々の必要としている支援を実施している。入居対象とならない入居希望者には、他施設等の紹介、一時的に医療が必要な場合はその関係機関や本庁関係課に照会をかける等、本人や家族が必要とすることを早期に対応する努力を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者のタイムテーブルについて時間を決めることなく、共に暮らす生活を送れるような関係を築けるよう努力している。入居者が職員と共に主体的な生活者としてサービスを利用し続けることができるように計画している。できることは声掛けを行い、お手伝い等を行っていたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍であっても、感染症対策を講じ、家族面会を1日3組と限定し実施。看取り期の入居者のご家族については、面会制限を設けず対応している。一方的な介護とならないよう、担当職員から毎月手紙を送付し、家人と共にケアできるきっかけを日々探る関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者の多くは地元出身であり馴染みの景色と場所で暮らしを継続している。住み慣れた地域の中にあるため、馴染みの人の訪問もあり人や場所の関係が途切れることなく生活を送っている。遠方の家族には、SNS等やテレビ電話等にて、コミュニケーションを図れるように努めている。	地域ボランティアの方からの声掛けや子ども園来訪の花祭りで園児とのふれあいがある。欲しい物を書き、商店の方から届けられる仕組みがある。利用開始してから新しい友達ができるなど馴染みの人や場所との交流継続に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	コロナ禍でも外出レクや食事会等を企画実施し、入居者同士の関係を支援している。施設所有の近隣の研修センターへのドライブでは、自然の風景や空気を感じいつもとは違う環境の中で、入居者同士の関わりを負担にならないよう職員が見極めながら支援を継続的に実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去した入居者やその家族に対して、広報誌を始めとして、関わりを持ち続ける関係づくりを行っている。また、次の入居先や病院への面会等、継続的に実施している。家族との関わりは継続してフェイスブックやラインなどSNSを利用した相談の受付等を実施している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コロナ禍の取り組みとし、家族との連絡や報告ができるよう、LINEビデオ通話を開設している。日常の暮らしの中での困難な場面、楽しんでいる場面を共有し思いの把握に結びつけられるよう、今後の暮らしの希望等を把握し、計画書などへ反映させている。	利用者担当職員が日々の生活の中から、意見や気づきを申し送りノートに記録し、共有している。食の進まない利用者に家族からうどんが好物と聞き、ゆでた乾麺を味噌汁の中に入れて完食した事例がある。又、飲み物やおやつを数種類用意し自分で選べる楽しさを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメント等がある場合には入手し面接訪問を行う。生活歴、馴染みの暮らし、これまでのサービス利用の経過等をケース記録に記載している。多くの暮らしの情報の把握に努め、入居者とのコミュニケーションの中で得た新しい情報と共に多方面からの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	集団ケアと個別ケアを計画書の中で区分し入居者の心身の状況に合わせ日々を流動的に計画的にケアしている。実施したか否かをケアチェック表にて確認し、次の計画書へ反映している。日誌等を両ユニットで共有し把握している。細かな気づきにも伝達観察していけるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>計画書はケース担当者を定め介護支援専門員等と共に家族や本人の意向のもと作成する。全職員の多様な視点から介護の実践を行いケアチェック表をもとにモニタリングを行っている。電話や書面で家族から意見が出せるツールを設け、日々の気づき等の意見をまとめている。</p>	<p>担当職員がアセスメントを行い、ケアプラン原案を作成し、カンファレンスで多様な提案やアイデアを集約し、計画作成者がケアプランを作成している。ケアチェック表をもとにモニタリングを行い、変化があれば見直しを行い、現状に即したケアプランを作成している。全職員が把握し情報共有している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>記録については、個々のファイルを作成し、介護計画に基づいたプランを実施する。日々の変化等を記載し、カンファレンスを開き、実践や計画を見直しする。申し送りでは、ボールペンの色を変える等して、他ユニットの入居者も把握できるように、情報の共有化を図っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>サービスの多機能性とし、家族との食事場所としてラウンジ、子供たちのプレイルームとして子供カフェを整備している。地域交流ホールの開放や要望に多機能に答えることができるよう施設内外を整備し近隣の商店、菊造り作者にも協力を要請し取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源の活用として入居前の介護支援専門員と連携しインフォーマルケアを実施している。近隣のお好み焼き屋からの配達や地域資源との協働で安全安心で豊かな暮らしができるように支援し、隣接する社会福祉法人との連携は他には類をみない協働が拓けている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力病院は多科であり地域に存在する医師が協力的に対応している。かかりつけ医を変えずに往診や通院で現在の暮らしを行い、馴染みの医師との関わりを大切にしている。区内には公立病院も存在し適切な医療が受けられる。20床以上の入院病棟を持った医療の支援体制もできている。</p>	<p>利用開始時にかかりつけ医の継続の説明をしている。法人敷地内クリニックの月2回の訪問診療や事業所看護師が介護職員を兼務していて、看護と介護の連絡ノートで情報共有ができ、適切な医療体制を築いている。眼科、皮膚科など専門科の受診は家族の協力を得ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護職員は介護職員を兼務し24時間のオンコール体制、緊急時は10分以内に到着できる地域住民を配置している。看護と介護の連絡ノートを作成し情報共有し、チーム協力で介護、医療の業務を遂行している。隣接する社会福祉法人の看護職員による後方支援は万全である。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時には施設長等が同行している。情報提供書を早期発行し入院先へ情報提供している。退院時はサマリーの情報提供を受け日常生活に対応できるよう共有化を行っている。早期退院に向けての支援や入院時の家族の負担軽減に努力し入院中や入退院時の準備等の支援を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合や終末期等は、家族と共に考える機会を提供している。終末期に家人の宿泊場所もあり、共に生活していただく。居室には好きな音楽やお花を飾ったりリラクゼーションできる場所となるよう支援している。経口摂取にもこだわりお好きな物を提供する等の支援も行っている。</p>	<p>契約時に、重度化した場合、終末期について本人、家族に意向の確認をしている。重度化や終末期を迎えた時、好物を一口、口にされ満足して安らかに最期を迎えられたことがある。家族と一緒に過ごされる時間を重んじ、宿泊場所もあり、職員が同じ思いで寄り添う支援をしている。看取り後は振り返りを行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時の対応方法等を定期的実施し119番通報並びに施設長等への連絡手順を緊急連絡網に記載し、相互の判断で対応する。吸引機等を完備し急変や事故発生時に対応し定期的に研修を実施し委員会では事故報告書等を用い発生要因の分析と再発防止策を検討し全職員に回覧している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>一時避難場所の指定を自治会から受け災害時応援協定を地域と締結し、災害時には、100人が3日間寝食ができるよう、非常食や自家発電機等を取り揃えている。火災訓練についても地域と共に広島市消防局の指導のもと実施し、地域とは、非常食を実際に調理する訓練も行っている。</p>	<p>年2回の防災訓練には地域住民の参加で開催している。消防署員の指導で初期消火や煙の体験、緊急時の移動訓練など実施している。試食会で備蓄食を実際に調理している。緊急時の連絡網を設置し、瞬時に情報発信をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	施設内年間研修として、人権・同和研修を行っている。職員としての視点とより家人に近い視点を考慮している。職員育成にも人として多様な視点を持つことが双方の尊厳たることと考え取り組む。入居者個々の細部に渡った人格の尊重とプライバシーの確保できるよう努力している。	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることのないよう衛生用品の収納には外から見えない工夫や車いす利用者の方がトイレにパットを持っていく際は、車いす後ろ側のポケットに入れるなど細かな点にも配慮工夫をしている。不適切な言葉掛けには、さりげなく注意するなど個々の育成に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	集団的ケアと個別ケアを総合的に心身の状況にあわせ支援している。特に入浴や食事は入居者の意向に沿って自己選択のもと決定を行い、一方的な介護とならないように注意している。食事に関しては嗜好調査の実施、入浴については洋服選びからのコミュニケーションを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	共通と個別を設定し個々の介護計画に沿ってサービス提供する。食事は2時間以内の提供を基本に状況に沿って提供している。生活の安全安楽を考慮しながら自らが主体的な生活者として尊厳ある今を過ごせるよう支援している。一日の終わりに笑顔で床に就いて頂くよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居前の状態を把握しその人らしい整容を実施し、化粧等の介助等おしゃれを楽しんで頂いている。理容美容の希望に沿って外部の協力を得ながら、カットだけではなく、パーマ、カラーもできる。行事には着物も用意し入居者の方には好みを聞きながら着付けをさせて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	椅子の高さ等を調節し配席に留意し食事を楽しんで頂く。契約農家直送の朝採れ野菜を中心に生活の知恵を活かし、食文化や四季折々の季節を楽しんで頂いている。台所からの音や匂いを食への意欲につなげ、野菜の皮むき等、働ける力を心身の状況に合わせて引き出すよう工夫している。	副食は施設厨房で調理し、ご飯、味噌汁、季節の旬の野菜や農園で採れた野菜を使って1品を添えている。パンが好きな利用者には朝はパン食に、誕生日は好きな物を提供している。ピザやすし店、パン屋のキッチンカーの来訪やおやつにスイートポテト、おはぎなど手作りで食を楽しむ支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	心身の状況に合わせて水分摂取を無理なくできるようにしている。食事量が低下している入居者については統一ではなく、その入居者の生活習慣と栄養バランス、嗜好等を添えた食事提供を行っている。関連施設の管理栄養士等と連携し、健康状態及び栄養面等に配慮した食事に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	心身の状況に合わせて口腔内の清潔に努めている。洗面台にはうがい薬を設置しうがいを励行し感染症の予防と嚥下機能の低下を予防し、うがい手洗いを職員と共に行っている。歯科医師等より技術的助言及び指導を適宜受け、義歯の着脱、清潔等に努め、個別の口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	心身の状況に合わせて排泄介助を行っている。排泄パターンや服薬介助を継続し改善の方向に働きかけている。個々のパターンを記録し、失禁を未然に防ぐ努力を行っている。排便については総蠕動運動を活発に行えるよう、入居者にあった介護の方法を生み出し医療職と連携しながら実施している。	トイレのドアは他と違った濃い色で迷わないよう色分けしている。個々の排泄パターンや状況に合わせて声掛けを行い、リハビリパンツから布パンツになるなど、トイレで座位にて排泄が出来るよう自立に向けて支援をしている。食事、栄養、水分、運動、排便コントロールなど工夫し取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事や排泄の研修等生活支援技術講習を実施している。基本の確認と個々の入居者に応じた技術向上を目的としその原因や及ぼす影響を理解し研修の回数を重ねている。便秘の予防対策として食事・栄養・水分の3項目に着目し一人ひとりを対象にカンファレンスを実施し具体化している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴時間は原則職員がユニット内に2名以上配置されている時間帯であれば入浴できる体制である。スケジュールを作成している入居者もおり、スケジュールに沿ってや排泄の状態に合わせて入浴する等、心身の状況に合わせて入浴を提供している。入浴後には肌の保湿が保てるようにしている。	週2回の入浴が基本で拒否があれば無理強いせず、曜日や職員を変えるなど柔軟に対応している。利用者の状況に合わせた見守りや一部介助など自己を尊重した支援をしている。服選び、入浴後の保湿剤塗布や水分補給、菖蒲湯やゆず湯など入浴を楽しむ支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	必要以外の薬に頼らず、話を聞いたり、室温等に気を配り自然な流れで床に就くよう心掛けている。不眠時はお茶などの提供をし、昼夜逆転が無いよう生活を個々に合わせ活動的に行っている。外気に触れる等、自然と体とのトータル的な関わりを重視し安眠へつながる努力をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬管理は原則職員が行う。薬の説明や相談を受けられる環境で安心して医療支援を受けることができている。個人ボックスにてお薬手帳と合わせ薬に対して副作用を管理している。医療研修等を開催し薬の副作用について理解し服薬変更後は記録を行い、心掛け、変更後の様子に注視している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナ禍の中でも外出の機会等を絶やさないよう、施設所有の研修センターへのドライブや食事会等を定期的実施し、変わりゆく四季の風景を直接感じていただける良い機会となっている。施設内においても感染症対策を講じながら、法話等については実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染症対策を講じた中でこそできる外出支援を考え外食ツアーを実践している。日常的な外出支援として、光や風を感じられる場所へ出る意味を考え、ケアへの位置づけを行っている。天気の良い日には、デッキへ出て、体操やお茶の時間を楽しんでもらう等している。	当施設研修センターにて季節の食材を使っての外食ツアーや希望の食事をリストアップしての個別対応、そば打ち体験、父の日のコンサートなど非日常を楽しんだり、デッキに出てお茶の時間など感染症予防対策をしての支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の持ち込みは禁止し小口現金とし事務室金庫で個別に保管し入居者の安心につながるよう全職員が共通理解し実施している。外出先の買い物も本人がお金を払う等直接的に金銭のやり取りができるよう支援している。売店販売を行っており、毎朝散歩がてらに購入する入居者もいる。		

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	書道教室で書いた年賀状を出したり家人の協力の上自らが電話や手紙を出したりできる支援を行っている。施設内売店により便箋等も購入できる。郵便番号や電話番号を一緒に調べたり、入居者の方に合わせた方法で支援している。ラインビデオ電話も開通し、面会制限に対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室と共同生活室の距離を心身に合わせ入居時に決める。室名札等は使用せず家庭的な空間を心掛けている。暮らしの空間である居室や共同スペース等には生活の音以外は持ち込まない。業務用機器を使わず家庭にもある物や風景、食事の香りを大切にし、全居室に手洗いを設置している。	馴染みの物や冷蔵庫、食器棚など家庭と同じ物を設置し、我が家と同じ雰囲気でも過ごす事ができる。テーブル、椅子の高さや配席、食事や食後の会話など寛げるようになっている。トイレのドアは色分けで識別でき、廊下にソファを配置し、外を見ながら過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	2ユニットを平屋にし両ユニットの行き来ができるように整備した。全室個室のため一人になれたり、他の入居者を招き入れ気の合った入居者同士で過ごすことができる。畳廊下等にセミパブリックスペースを設置し各々の居場所づくりを可能とし、中庭に出て外気に触れ飲食もできる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居にあたって、原則本人又は家人が施設見学を実施後とする。何度も施設内や居室を見に来て本人と家人が相談し使い慣れたものやカーテン等を持ち込んでいる。家人が遠方であったり来設が困難な場合は季節に応じた家庭用品の購入を職員と共に実施する等、柔軟な対応を行っている。	家で使い慣れた物、馴染みの物が持ち込まれ、自宅と同じ居室に近づけるよう配置をしている。家族の写真や趣味の水引きの組み作品などそれぞれの利用者が心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレを狭く転倒防止と安全で自立して排泄できるようにした。ミストサウナは心身に負担をかけず入浴を楽しめる。台所を共同生活室の中央にし大空間に手すりをつけ自立した行動を拡大し食事作りや香り、音等を楽しめている。ユニットを繋ぐ畳廊下により安全で自立した生活が送れている。		

V アウトカム項目(金刀比羅) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設の理念を共有し、実践につなげるため、立ち止まる場所、振り返る場所は「施設理念」として伝え続けている。朝・夕の申し送り、各会議開始時は、理念の唱和を行っている。スタッフと共に考えた本年度の事業目標は、「思いやりを持って行動しよう」としている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	年間を通じて広報誌を発行し、近隣地域へは新聞の折り込みに入れている。SNSによる発信や駐車場を開放したこども園との交流や、小学校の福祉学習の場の提供は継続している。また、秋祭り花火大会、花いっぱい運動、地域防災活動を地域の方々と共催にて行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	防災訓練等を地域合同にて実施している。施設長は、広島県全域にて地域包括支援センター、教育機関、一般財団法人、各種団体企業と連携を図り、認知症講座を開催し、介護職員の現任、初任者研修講師として啓蒙活動を積極的かつ継続的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍において、書面での家族会の開催が継続しているが、面会時やサービス担当者会議時には、ご家族の意見を聞かせていただいている。あわせて、ご家族への連絡は適宜、状況の報告を行うと共に、意見を頂き、日々の生活に反映できるように努力している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	広島市・広島県の福祉関係機関担当者等との連絡、連携をとり、事業所の実績やケアサービスの取組みについて協力関係を構築している。また、運営推進委員会との連携を計画的に図るため、広報誌を配布し、毎月の行事案内をSNSを利用し、連絡を密にしている。		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>委員会を中心に年間を通じて計画的に研修等を行い、指定基準の禁止の対象となる具体的な拘束行為を正しく理解するように努めている。夜間並びに事務職員不在時は、入居者の安全確保と防犯上の観点から暮らしの空間とその他の空間を施錠するがその他の時間帯は行っていない。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者のお宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>尊厳あるケアの提供に努め施設内外の研修に参加している。自己研鑽できる環境で虐待等を見逃ごすことがない様勇気を持って発言できる環境、防止に努め、豊かな人間性の育成、職員指導に重きを置き、言葉による虐待もあることを職員間で日々意識し未然に防げるように対応している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>後見人がいる入居者について個々の必要性を関係者と話し合い、状況をライン等で報告している。入居者の状況と家人の思いが大幅に異なる場合等は常時後見人と連絡し状況を共有している。管理者のみの家人連絡ではなく担当職員が家人へ毎月手紙を出す等、全職員で接点を持っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>説明と同意は最低2時間を使い、契約までに入居者、家人の見学を原則に入居者が納得の上で、家人と共に分かりやすい説明で理解できるように努めている。不安や疑問点を尋ねやすい状況を作るために連絡しやすい環境を個々に設置し、意見や要望を日々受付られるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>コロナ禍で会議開催を見送る状況が続くが、書面にて入居者や家人の意見や要望を受け入れ、運営に反映する努力をしている。外部評価の受審により家人に対する匿名アンケートや職員がアウトカム項目のチェックを行い、現在の運営を振り返り、基本を大切にすることを得ている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の朝夕礼、週単位で実施される連絡会議、月1回実施される、主任、経営、職員会議、カンファレンス、委員会会議等、適宜実施される職員個別面接等を実施している。また、職員の意見を反映し、ピザーラ、すし辰、アンデルセン等の出店を施設内で行い、実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面接・経験値等を考慮し給与や分掌を精査している。得意な事を業務に活かし、付帯的に不得意な業務が向上できる様になっている。有資格者の確保と常勤職員の登用により処遇改善加算を毎月支給している。有給休暇に関しては管理簿にて管理しシフトを作成している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修を定期的実施し適宜施設外研修に参加している。認知症実践者、リーダー研修を年間1名以上施設負担にて受講できるようにし、キャリア段位制度における評価者を配置している。独自の目標管理シートにより個別面接を実施し、スキルアップへの取組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センター等同業者との交流、ネットワークづくりや勉強会等に施設提供を行うことにより、サービスの向上を図る取組みを実施している。隣接する介護老人福祉施設、地域のこども園等とのネットワーク作りに努め、相互のサービスの質を向上させる取組みを実施している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にはご本人の生活環境を確認し、面談にて現況を把握し不安の解消の礎となるよう努力している。原則本人が居室環境の選択決定を行い、入居日には本人の希望や不安なこと等を担当者がアセスメントし、カンファレンス後、計画書を作成し、本人や家族へ説明同意を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学やインテーク並びに自宅訪問については事前にアポイント時間を3時間設定し、ゆとりをもって接することを心掛けている。契約時は要望や気づきに耳を傾けられるよう、環境を整え、施設長との連絡を24時間可能とし、メール、電話、SNSを利用した関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居開始では居宅等や入院先等の照会等、個々の必要としている支援を実施している。入居対象とならない入居希望者には、他施設等の紹介、一時的に医療が必要な場合はその関係機関や本庁関係課に照会をかける等、本人や家族が必要とすることを早期に対応する努力を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者のタイムテーブルについて時間を決めることなく、共に暮らす生活を送れるような関係を築けるよう努力している。入居者が職員と共に主体的な生活者としてサービスを利用し続けることができるように計画している。できることは声掛けを行い、お手伝い等を行っていた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍であっても、感染症対策を講じ、家族面会を1日3組と限定し実施。看取り期の入居者のご家族については、面会制限を設けず対応している。一方的な介護とならないよう、担当職員から毎月手紙を送付し、家人と共にケアできるきっかけを日々探る関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者の多くは地元出身であり馴染みの景色と場所で暮らしを継続している。住み慣れた地域の中にあるため、馴染みの人の訪問もあり人や場所の関係が途切れることなく生活を送っている。遠方の家族には、SNS等やテレビ電話等にて、コミュニケーションを図れるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	コロナ禍でも外出レクや食事会等を企画実施し、入居者同士の関係を支援している。施設所有の近隣の研修センターへのドライブでは、自然の風景や空気を感じいつもとは違う環境の中で、入居者同士の関わりを負担にならないよう職員が見極めながら支援を継続的に実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去した入居者やその家族に対して、広報誌を始めとして、関わりを持ち続ける関係づくりを行っている。また、次の入居先や病院への面会等、継続的に実施している。家族との関わりは継続してフェイスブックやラインなどSNSを利用した相談の受付等を実施している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コロナ禍の取り組みとし、家族との連絡や報告ができるよう、LINEビデオ通話を開設している。日常の暮らしの中での困難な場面、楽しんでいる場面を共有し思いの把握に結びつけられるよう、今後の暮らしの希望等を把握し、計画書などへ反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメント等がある場合には入手し面接訪問を行う。生活歴、馴染みの暮らし、これまでのサービス利用の経過等をケース記録に記載している。多くの暮らしの情報の把握に努め、入居者とのコミュニケーションの中で得た新しい情報と共に多方面からの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	集団ケアと個別ケアを計画書の中で区分し入居者の心身の状況に合わせ日々を流動的に計画的にケアしている。実施したか否かをケアチェック表にて確認し、次の計画書へ反映している。日誌等を両ユニットで共有し把握している。細かな気づきにも伝達観察していけるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>計画書はケース担当者を定め介護支援専門員等と共に家族や本人の意向のもと作成する。全職員の多様な視点から介護の実践を行いケアチェック表をもとにモニタリングを行っている。電話や書面で家族から意見が出せるツールを設け、日々の気付き等の意見を集めている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>記録については、個々のファイルを作成し、介護計画に基づいたプランを実施する。日々の変化等を記載し、カンファレンスを開き、実践や計画を見直しする。申し送りでは、ボールペンの色を変える等して、他ユニットの入居者も把握できるように、情報の共有化を図っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>サービスの多機能性とし、家族との食事場所としてラウンジ、子供たちのプレイルームとして子供カフェを整備している。地域交流ホールの開放や要望に多機能的に答えることができるよう施設内外を整備し近隣の商店、菊造り作者にも協力を要請し取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源の活用として入居前の介護支援専門員と連携しインフォーマルケアを実施している。近隣のお好み焼き屋からの配達や地域資源との協働で安全安心で豊かな暮らしができるように支援し、隣接する社会福祉法人との連携は他には類をみない協働が拓けている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力病院は多科であり地域に存在する医師が協力的に対応している。かかりつけ医を変えず往診や通院で現在の暮らしを行い、馴染みの医師との関わりを大切にしている。区内には公立病院も存在し適切な医療が受けられる。20床以上の入院病棟を持った医療の支援体制もできている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員は介護職員を兼務し24時間のオンコール体制、緊急時は10分以内に到着できる地域住民を配置している。看護と介護の連絡ノートを作成し情報共有し、チーム協力で介護、医療の業務を遂行している。隣接する社会福祉法人の看護職員による後方支援は万全である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には施設長等が同行している。情報提供書を早期発行し入院先へ情報提供している。退院時はサマリーの情報提供を受け日常生活に対応できるよう共有化を行っている。早期退院に向けての支援や入院時の家族の負担軽減に努力し入院中や入退院時の準備等の支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期等は、家族と共に考える機会を提供している。終末期に家人の宿泊場所もあり、共に生活していただく。居室には好きな音楽やお花を飾ったりとリラックスできる場所となるよう支援している。経口摂取にもこだわり好きな物を提供する等の支援も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	急変時の対応方法等を定期的の実施し119番通報並びに施設長等への連絡手順を緊急連絡網に記載し、相互の判断で対応する。吸引機等を完備し急変や事故発生時に対応し定期的に研修を実施し委員会では事故報告書等を用い発生要因の分析と再発防止策を検討し全職員に回覧している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	一時避難場所の指定を自治会から受け災害時応援協定を地域と締結し、災害時には、100人が3日間寝食ができるよう、非常食や自家発電機等を取り揃えている。火災訓練についても地域と共に広島市消防局の指導のもと実施し、地域とは、非常食を実際に調理する訓練も行っている。		

自己評価	外部評価	項目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	施設内年間研修として、人権・同和研修を行っている。職員としての視点とより家人に近い視点を考慮している。職員育成にも人として多様な視点を持つことが双方の尊厳たることと考え取り組む。入居者個々の細部に渡った人格の尊重とプライバシーの確保できるよう努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	集団的ケアと個別ケアを総合的に心身の状況にあわせ支援している。特に入浴や食事は入居者の意向に沿って自己選択のもと決定を行い、一方的な介護とならないように注意している。食事に関しては嗜好調査の実施、入浴については洋服選びからのコミュニケーションを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	共通と個別を設定し個々の介護計画に沿ってサービス提供する。食事は2時間以内の提供を基本に状況に沿って提供している。生活の安全安楽を考慮しながら自らが主体的な生活者として尊厳ある今を過ごせるよう支援している。一日の終わりに笑顔で床に就いて頂くよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居前の状態を把握しその人らしい整容を実施し、化粧等の介助等おしゃれを楽しんで頂いている。理容美容の希望に沿って外部の協力を得ながら、カットだけではなく、パーマ、カラーもできる。行事には着物も用意し入居者の方には好みを聞きながら着付けをさせて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	椅子の高さ等を調節し配席に留意し食事を楽しんで頂く。契約農家直送の朝採れ野菜を中心に生活の知恵を活かし、食文化や四季折々の季節を楽しんで頂いている。台所からの音や匂いを食への意欲につなげ、野菜の皮むき等、働ける力を心身の状況に合わせて引き出すよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	心身の状況に合わせ水分摂取を無理なく できるようにしている。食事量が低下し ている入居者については統一ではなく、 その入居者の生活習慣と栄養バランス、 嗜好等を添えた食事提供を行っている。 関連施設の管理栄養士等と連携し、健康 状態及び栄養面等に配慮した食事にし ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	心身の状況に合わせて口腔内の清潔に努 めている。洗面台にはうがい薬を設置し うがいを励行し感染症の予防と嚥下機能 の低下を予防し、うがい手洗いを職員と 共に行っている。歯科医師等より技術的 助言及び指導を適宜受け、義歯の着脱、 清潔等に努め、個別の口腔ケアを実施し ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	心身の状況に合わせ排泄介助を行ってい る。排泄パターンや服薬介助を継続し改 善の方向に働きかけている。個々のパ ターンを記録し、失禁を未然に防ぐ努力 を行っている。排便については総蠕動運 動を活発に行えるよう、入居者にあつた 介護の方法を生み出し医療職と連携しな がら実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事や排泄の研修等生活支援技術講習を 実施している。基本の確認と個々の入居 者に応じた技術向上を目的としその原因 や及ぼす影響を理解し研修の回数を重ね ている。便秘の予防対策として食事・栄 養・水分の3項目に着目し一人ひとりを 対象にカンファレンスを実施し具体化し ている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入浴時間は原則職員がユニット内に2名 以上配置されている時間帯であれば入浴 できる体制である。スケジュールを作成 している入居者もあり、スケジュールに 沿ってや排泄の状態に合わせ入浴する 等、心身の状況に合わせ入浴を提供し ている。入浴後には肌の保湿が保てるよ うにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	必要以外の薬に頼らず、話を聞いたり、室温等に気を配り自然な流れで床に就くよう心掛けている。不眠時はお茶などの提供をし、昼夜逆転が無いよう生活を個々に合わせ活動的に行っている。外気に触れる等、自然と体とのトータル的な関わりを重視し安眠へつながる努力をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬管理は原則職員が行う。薬の説明や相談を受けられる環境で安心して医療支援を受けることができている。個人ボックスにてお薬手帳と合わせ薬に対して副作用を管理している。医療研修等を開催し薬の副作用について理解し服薬変更後は記録を行い、心掛け、変更後の様子に注視している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナ禍の中でも外出の機会等を絶やさないよう、施設所有の研修センターへのドライブや食事会等を定期的実施し、変わりゆく四季の風景を直接感じていただける良い機会となっている。施設内においても感染症対策を講じながら、法話等については実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染症対策を講じた中でこそできる外出支援を考え外食ツアーを実践している。日常的な外出支援として、光や風を感じられる場所へ出る意味を考え、ケアへの位置づけを行っている。天気の良い日には、デッキへ出て、体操やお茶の時間を楽しんでもらう等している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の持ち込みは禁止し小口現金とし事務室金庫で個別に保管し入居者の安心につながるよう全職員が共通理解し実施している。外出先の買い物も本人がお金を払う等直接的に金銭のやり取りができるよう支援している。売店販売を行っており、毎朝散歩がてらに購入する入居者もいる。		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	書道教室で書いた年賀状を出したり家人の協力の上自らが電話や手紙を出したりできる支援を行っている。施設内売店により便箋等も購入できる。郵便番号や電話番号を一緒に調べたり、入居者の方に合わせた方法で支援している。ラインビデオ電話も開通し、面会制限に対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室と共同生活室の距離を心身に合わせ入居時に決める。室名札等は使用せず家庭的な空間を心掛けている。暮らしの空間である居室や共同スペース等には生活の音以外は持ち込まない。業務用機器を使わず家庭にもある物や風景、食事の香りを大切にし、全居室に手洗いを設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	2ユニットを平屋にし両ユニットの行き来ができるように整備した。全室個室のため一人になれたり、他の入居者を招き入れ気の合った入居者同士で過ごすことができる。畳廊下等にセミパブリックスペースを設置し各々の居場所づくりを可能とし、中庭に出て外気に触れ飲食もできる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居にあたって、原則本人又は家人が施設見学を実施後とする。何度も施設内や居室を見に来て本人と家人が相談し使い慣れたものやカーテン等を持ち込んでいる。家人が遠方であったり来設が困難な場合は季節に応じた家庭用品の購入を職員と共に実施する等、柔軟な対応を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレを狭く転倒防止と安全で自立して排泄できるようにした。ミストサウナは心身に負荷をかけず入浴を楽しめる。台所を共同生活室の中央にし大空間に手すりをつけ自立した行動を拡大し食事作りや香り、音等を楽しめている。ユニットを繋ぐ畳廊下により安全で自立した生活が送れている。		

V アウトカム項目(巖島) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームこころ

作成日 令和5年7月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	職員間のケアの統一	ケアプランの把握	ケアチェック表の活用	3か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。